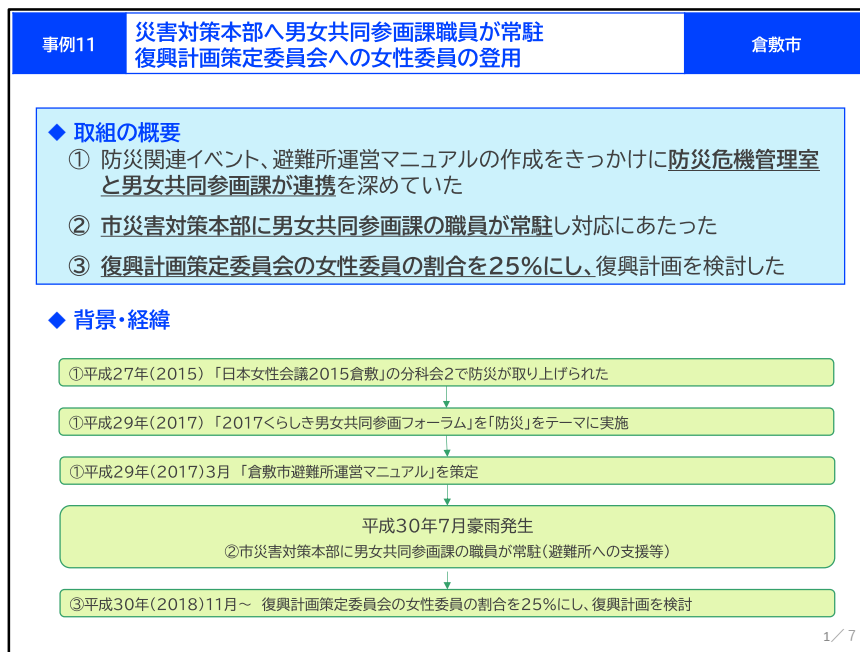




防災危機管理室と男女共同参画課が平常時から連携し、被災時に市災害対策本部に男女共同参画課の職員が常駐し、また、復興計画策定委員会に女性委員を積極的に登用した事例です。

倉敷市では、平成30年7月豪雨の発生時に、男女共同参画課が様々な取組を実施しました。

まず、取組の概要を説明します。

【ポイント】

- ① 防災関連イベント、避難所運営マニュアルの作成をきっかけに防災危機管理室と男女共同参画課が連携を深めていた
- ② 市災害対策本部に男女共同参画課の職員が常駐し対応にあたった
- ③ 復興計画策定委員会の女性委員の割合を25%にし、復興計画を検討した

次に、取組の背景・経緯について説明します。

【背景・経緯】

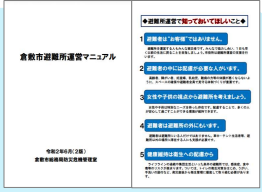
平成27年(2015)に、倉敷市で開催された日本最大級の男女共同参画イベントである日本女性会議の分科会で防災が取り上げられました。そのことがきっかけで、毎年行われていた「くらしき男女共同参画フォーラム」で平成29年(2017)は「防災」をテーマに実施しました。男女共同参画課だけでは分からないことも多いので、この日本女性会議とフォーラムは、企画の段階から、オブザーバーとして防災危機管理室が関わりました。

平成29年(2017)3月「倉敷市避難所運営マニュアル」を策定しました。当時、フォーラムを防災危機管理室と男女共同参画課が共同で企画を進めているといったタイミングと、マニュアル作成のタイミングが重なって、策定段階から防災危機管理室より男女共同参画課に声掛けを行い、男女共同参画課から意見をもらいながら作っていました。

平成30年7月豪雨の際には、大規模な災害だったこともあり、他部署からも多くの職員が災害対策本部室に詰めて災害対応にあたっていました。その中で、事務局のスペースには男女共同参画課の職員が発災直後から常駐していました。そして、その災害対策本部に常駐していた職員からもたらされた最新の情報と、内閣府「男女共同参画の視点からの避難所運営等の災害対応について(依頼)※」をもとに、男女共同参画課が独自の対応に動きました。

平成30年(2018)11月からは、被害が甚大であった真備地区の復興計画策定委員会に女性委員を25%任命し、復興計画を検討しました。

※「男女共同参画の視点からの避難所運営等の災害対応について(依頼)」(府共第417号 平成30年7月10日) <https://www.gender.go.jp/policy/saigai/kanren.html>

事例11	災害対策本部へ男女共同参画課職員が常駐 復興計画策定委員会への女性委員の登用	倉敷市
◆ 取組内容 ① 防災関連イベント、避難所運営マニュアルの作成をきっかけに 防災危機管理室との連携を深めていた 日本女性会議2015倉敷 ・分科会で防災がテーマに取り上げられた ・分科会に防災危機管理室も関わった くらしき男女共同参画フォーラム ・「防災」をテーマに開催 ・企画の段階から、オブザーバーとして防災危機管理室が関わった ・成果物として、冊子(右)を作成した  作成した冊子 【冊子ダウンロード】 倉敷市男女共同参画課HP： https://www.city.kurashiki.okayama.jp/3722.htm  倉敷市避難所運営マニュアル ・策定段階から防災危機管理室より男女共同参画課に声掛けを行い、男女共同参画課から意見をもらいながら作成した ・自主運営する際は目安として班員の3割以上は女性が参加することなどをマニュアルで定めている 【マニュアルダウンロード】 倉敷市防災危機管理室HP： https://www.city.kurashiki.okayama.jp/36579.htm   倉敷市避難所運営マニュアル(令和2年6月)		

倉敷市で実施したそれぞれの取組について説明します。

① 防災関連イベント、避難所運営マニュアルの作成をきっかけに防災危機管理室との連携を深めていた

【ポイント】

〔日本女性会議と男女共同参画フォーラム〕

- 平成27年(2015)開催の「日本女性会議2015倉敷」の分科会と平成29年(2017)開催の「くらしき男女共同参画フォーラム」は「防災」をテーマに実施したため、企画の段階から、オブザーバーとして防災危機管理室が関わった。

〔倉敷市避難所運営マニュアル〕

- 平成29年の3月に「倉敷市避難所運営マニュアル」を策定した。
- 防災危機管理室が、策定段階から男女共同参画課に声掛けを行い、男女共同参画課から意見をもらいながら作成した。
- 目安として避難所運営委員会の3割以上は女性に参加してもらうことなどを、避難所運営マニュアルで定めた。

【取組】

〔日本女性会議と男女共同参画フォーラム〕

- 「日本女性会議2015倉敷」がきっかけで、毎年、開催していた「くらしき男女共同参画フォーラム」を平成29年は「防災」をテーマに実施しました。男女共同参画課だけでは分からないことも多いため、このフォーラムは企画の段階から、オブザーバーとして防災危機管理室に関わっていただきました。
- 防災危機管理室としても、女性の視点を持った災害対応等の必要性について学び、災害時には当然男女共同参画課との連携が必要だろうという認識を改めて持つことができました。
- この2カ年で、すごく、連携が深まっていきました。
- フォーラムでは、山村武彦さんの講演と、被災時の状況を体験するワークショップなどを開催しました。

〔倉敷市避難所運営マニュアル〕

- 当時、フォーラムを防災危機管理室と男女共同参画課が共同で企画を進めているといったタイミングと、マニュアル作成のタイミングが重なり、策定段階から防災危機管理室より男女共同参画課に声掛けを行い、男女共同参画課から意見をもらいながらマニュアルを作成しました。そういったことが災害時の活動につながる効果はあったのではないかと思います。
- 防災部局だけで災害対応が完結するということは全くあり得ない話で、避難所の運営業務は、例えば、女性が主体となった運営にしていきたいのであれば男女共同参画課への相談は不可欠だ、と意識し連携しました。
- 避難所は避難者の皆さんが生活する場所であり、市職員が完全に運営する中で、お客さまのような形で避難者がいらしゃるのでは決してありません。地震などで、市の職員が行けないような場合や、遅れるような場合であっても、避難者の人たちが自主運営できるようになることを目的として、「避難所運営マニュアル」を策定しました。

- このマニュアルでは、目安として避難所運営委員会の3割以上は女性に参加してもらう・責任のある立場に必ず女性を配置することを定めました。

【参考】

(倉敷市避難所運営マニュアル 令和2年6月(2版)より一部抜粋)

マニュアルP.31 16避難所運営委員会の設置

(1) 構成員の選出

避難所運営委員会の 構成員選出の際の注意>

- ・ 構成員のうち、女性の割合が少なくとも3割以上となるよう努める。

(2) 会長、副会長の選出

- ・ 避難所運営委員会の構成員の中から、会長、副会長を選出する。なお、会長・副会長のいずれかに女性を選出するよう努める。

マニュアルP.32 17各運営班の設置

(1) 班員の選出

<班員選出の際の注意>

- ・ 男性だから、女性だからという固定観念に縛られることなく、本人の希望を聞き、業務を割り振る。ただし、女性用の物資の受け渡しや女性からの要望を聞き取りやすいよう、総務班、要配慮者支援班、食料・物資班には女性を入れるよう努める。

事例11	災害対策本部へ男女共同参画課職員が常駐 復興計画策定委員会への女性委員の登用	倉敷市
◆ 取組内容 ② 市災害対策本部に男女共同参画課の職員が常駐し対応にあたった 平成30年7月豪雨 発災時の対応 ・ 災害対策本部事務局では、男女共同参画の意識はあるものの、手が回っていなかった ・ 男女共同参画課の職員が事務局のスペースに常駐した ・ ある程度落ち着いてから、常駐していた職員から男女共同参画課に最新の情報がいった ・ その情報を基に、男女共同参画課としてできる対応を実施した ・ 当時、地域防災計画の中には男女共同参画課としての役割は定められていなかった  末政川堤防決壊箇所  浸水の状況(辻田付近)  災害対策本部の様子▶ 【災害記録誌ダウンロード】 倉敷市防災危機管理室HP： https://www.city.kurashiki.okayama.jp/36569.htm 		

3 / 7

②市災害対策本部に男女共同参画課の職員が常駐し対応にあたった

【ポイント】

- 平成30年7月豪雨の災害対応の際に、市防災危機管理室に男女共同参画課の職員が常駐した。
- 男女共同参画課は、常駐している職員から入る最新の情報を基に対応を行った。

【取組】

- 平成30年7月豪雨の際、防災危機管理室は、男女共同参画の視点も避難所で生かさないといけないという認識はあったが、膨大な災害対応業務に忙殺され手が回っていなかったのが実際でした。大規模な災害だったので、市役所内の様々な所属から支援のための職員が入っており、その流れで事務局のスペースに男女共同参画課の職員が常駐してくれたという流れでした。
- 発災当初は、災害対応業務として非常にいろいろな業務が降りかかってくるので、いきなり、男女共同参画の何かができたということはありませんでした。
- ある程度、落ち着いてきてから、災害対策本部事務局に常駐していた職員から男女共同参画課に最新の情報が入ってきて、その情報を基に、男女共同参画課としてできる対応を実施していきました。
- 平成30年7月豪雨の当時は、地域防災計画の中には男女共同参画課としての役割は定められておらず、考えてもいませんでした。

【参考】

[平成30年7月豪雨]

7月5日から8日にかけて記録的な大雨となり、6日夜には県内24市町村に大雨特別警報が発表された。

真備地区 の高梁川水系小田川及びその支流である県管理河川では、8か所で堤防決壊し、7か所で一部損壊・損傷し、約1,200ヘクタールが3日間にわたり水没、5,700棟超の住家が全壊・大規模半壊・半壊するなど大規模な洪水被害が発生し、市全体で59名（うち災害関連死7名）もの尊い命が失われる事態となった。（平成30年7月豪雨災害 対応検証報告書（平成31年4月 倉敷市）より）

事例11	災害対策本部へ男女共同参画課職員が常駐 復興計画策定委員会への女性委員の登用	倉敷市
◆ 取組内容		
② 市災害対策本部に男女共同参画課の職員が常駐し対応にあたった(つづき)		
避難所への支援 男女共同参画課が、内閣府の通知「男女共同参画の視点からの避難所運営等の災害対応について(依頼)」をもとに、直接、対応に動いた 【避難所の運営(環境)改善】 - 各避難所を回り、避難生活における困りごとや不足物資を聞き取った 【支援物資の提供】 - 様々なサイズの下着や、妊婦服、防犯ブザーの提供を受け、配布した 【性犯罪防止及び相談窓口の周知】 - 啓発及び相談先を周知するチラシを配布、掲示板に掲示した - 相談カードのトイレへの設置、防犯ブザーの配布をした  避難所に設置したパーテーション 応援職員への対応 - 避難所運営のために全国の自治体から派遣された応援職員は、圧倒的に男性が多かった - しかし、避難所の担当者の割り振りをする際には、運営に女性も必ず入るように配慮して決めた 【記録誌ダウンロード】 倉敷市防災危機管理室HP： https://www.city.kurashiki.okayama.jp/36569.htm 		

4 / 7

②市災害対策本部に男女共同参画課の職員が常駐し対応にあたった(つづき)

【ポイント】

〔避難所の支援内容〕

- 男女共同参画課は、内閣府の通知「男女共同参画の視点からの避難所運営等の災害対応について(依頼)※」をもとに支援を行った。
- 【避難所の運営(環境)改善】 各避難所を回り、女性や子ども等の視点から、避難生活における困りごとや不足物資を聞き取った。
- 【支援物資の提供】 全国の女性団体、女性センター、企業の協力のもと、女性や子どもの様々なサイズの下着や、妊婦服、防犯ブザーの提供を受け、配布を行った。
- 【性犯罪防止及び相談窓口の周知】 性被害・性暴力・DVリスクに備え、啓発及び相談先を周知するチラシを、長期にわたって開設していた全避難所(市内20か所)へ配布し、掲示板に掲示した。DVIに関する相談カードを避難所のすべての女子トイレに設置するとともに、女性用個室トイレ及びシャワー室用に防犯ブザーを配布した。

※「男女共同参画の視点からの避難所運営等の災害対応について(依頼)」(府共第417号 平成30年7月10日) <https://www.gender.go.jp/policy/saigai/kanren.html>

〔派遣応援職員〕

- 避難所運営のために派遣された職員は、圧倒的に男性が多かった。
- しかし、避難所業務は女性も必要であり担当者の割り振りをする際は、運営に女性も必ず入るように配慮して決めた。

【取組】

- 男女共同参画的な対応を本部にやってもらうというスタンスではだめ。本部は他にすることが山ほどあり、男女共同参画の視点で対応してくれなどと言っても迷惑な話だと思います。「やってくれ」じゃなくて、「私がやります」、「やっていいですか」、がよいのではないかと思います。

〔避難所の支援内容〕

- 下着を募ると、男性のものが実は集まらなかったりします。いわゆる、「おじさん」は、大事にされていないと感じました。下着を持って行っても、女性のものは山ほどあるけれど、横から、おじさんが、「わしらのはないわのう」と言われたことを記憶しています。
- 避難所のニーズは、直接、避難されてる方から聞く場合と、避難所の係員から聞く場合とがありました。係員はずっと避難された住民とお話をしているので、その中で聞いた話ということで伺う事項には運営改善のヒントがたくさんありました。

[派遣応援職員]

- 避難所運営が長期間に及び市の担当職員だけでは賄えないこともあり、岡山県や他県、中核市といった全国の自治体から応援職員の派遣をしていただきました。
- ところが、応援で来てくださる職員は、比較的、身軽に速く動き出しやすいという理由もあるのかと思いますが、圧倒的に男性が多いという状況でした。
- しかし、男性だけで避難所運営をできるかと言うと難しいため、避難所の担当者の割り振りをする際には、運営に女性も必ず入るように配慮して決めました。

【参考】

[災害を振り返って]

- 避難所の業務は、重いものを持つなど、男性が向いているといったイメージを持ちがちです。
- しかし実際は、女子トイレの掃除などは男性は出来なかったり、視覚障害を持たれている方の対応なども、相手が女性であれば男性が介助するのはなかなか難しい。「防災業務は男性」そういう先入観を打ち砕いていかないとならないと感じました。
- もともと女性が自分の家庭をなかなか離れられないという現実の制約があります。その構造的な問題も大きいのではないかと思います。
- 防災として課題だと思っていることは、避難所運営に限らず、支援を受けることがなかなかうまくいかなかったことでした。受援体制自体を、もう少し計画を立てようと、現在取り組んでいるところです。
- 災害発生当時は、要請する時点で、応援職員に女性をバランスよく確保するといったところまではなかなか組み込んでいなかったのが現状でした。
- 避難所運営マニュアルで、女性も避難所運営に参加することとしていましたが、実際には、計画どおりに機能しませんでした。計画を策定をして、周知をしているのですが、必ずしも十分でないかもしれませんし、市民に周知することも難しさがあります。災害が起きてから、避難所はどうするんだとマニュアルを見ていたのでは、追いつきません。
- 現在は、避難所運営マニュアルを昨年も一部改訂し、今後も改訂し、その後は出前講座や防災訓練の中で、マニュアルを活用した、避難所の開設や運営訓練ができればと考えています。

[女性職員等への支援]

- 災害対応に従事した職員から、災害後にアンケートを行った中で、避難所に勤務したが、子育てもしながら大変だったといった意見も多く寄せられています。市職員が災害対応を行うに当たり、託児所的な取り組みができればよいと思いますが、なかなかそこまで手が回っていません。
- 小学校・中学校の体育館、あるいは公民館などが避難所になります。豪雨災害のときは、体育館に入りきらないぐらいの避難者が詰めかけました。その中で職員は、校舎の中の部屋を使わせていただいたり、一部をパーティションで区切ったりして休んだりしているのが現状です。

事例11

**災害対策本部へ男女共同参画課職員が常駐
復興計画策定委員会への女性委員の登用**

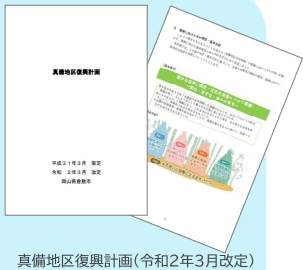
倉敷市

◆ 取組内容

③ 復興計画策定委員会の女性委員の割合を25%にし、復興計画を検討

甚大な被害が生じた倉敷市真備地区において、生活の再建に向けて住民が一日も早く安心して落ち着いた生活を取り戻し、再び真備町に戻っていただけるよう、復興に関する基本的な考え方及び主要な施策等を定める倉敷市真備地区復興計画を策定するため、倉敷市真備地区復興計画策定委員会を設置

- ・ 市長から委員会に女性を登用する方針が示され、委員を指名
- ・ 現状で22人の委員中女性が6名
- ・ 女性が代表を務める団体を登用している
- ・ 復興計画の中に具体的に男女共同参画について言及していることはないが、大人から子どもまで、みんなで憩えるといったことが強調されている



真備地区復興計画(令和2年3月改定)



【復興計画策定委員会詳細】
倉敷市災害復興推進室HP：
<https://www.city.kurashiki.okayama.jp/33460.htm>



第1回真備地区復興計画策定委員会

5 / 7

③復興計画策定委員会の女性委員の割合を25%にし、復興計画を検討

甚大な被害が生じた倉敷市真備地区において、生活の再建に向けて住民が一日も早く安心して落ち着いた生活を取り戻し、再び真備町に戻っていただけるよう、復興に関する基本的な考え方及び主要な施策等を定める倉敷市真備地区復興計画を策定するため、倉敷市真備地区復興計画策定委員会を設置しました。

【ポイント】

- 市長から委員会に女性を登用するという方針が示され、委員を指名
- 現状で22人の委員中、女性が6名
- 女性が代表を務める団体を登用
- 復興計画の中に具体的に男女共同参画について言及していることはないが、大人から子どもまで、みんなで憩えるといったことを強調

【取組】

- 復興計画の条例の中には、委員の選定の要件に、市民、公共団体の役員、学識経験を有する者、市議会の議員、議長が特に必要と認める者ということで、委員選定をさせていただきました。
- 結果、現状で22人の委員中女性が6名。(内訳: まちづくり推進協議会が7団体あり、その中の1人が女性。公共的団体等の代表者の中の福祉協会連合会から1名が女性、民生委員、児童委員、PTA連合会、婦人協、商工会女性部から各1名が女性。)あて職で入れていただき、女性の方が6名になりました。
- 商工会の女性部は女性しかいないため、女性が代表を務める団体を登用しているという点では評価できるかもしれません。
- 伊東市長が女性であるということもあり、こういった検討推進委員会などの委員を選ぶにおいても、女性のバランスについては配慮されていると思います。

【委員に女性が入った効果】

- 親しめる空間や、親子で楽しめる広場がある施設などが方針に組み込まれていきました。
- 復興計画の中に具体的に男女共同参画について言及していることはありませんが、大人から子どもまで、みんなで憩えるといったことが強調されています。

写真出典: 倉敷市市長室HP

事例11	災害対策本部へ男女共同参画課職員が常駐 復興計画策定委員会への女性委員の登用	倉敷市
------	---	-----

◆ 現在の活動

地区防災計画の作成

平成30年7月豪雨災害を受け、災害など万が一の事態が生じた場合に備え、事前準備や避難行動などについて住民達が自ら考える「地区防災計画」の策定を進めることとした

- 令和元年8月3日 地区防災計画策定キックオフ講演会を開催
- 策定がうまく進んでいるところは女性が多い
- 地区防災計画を、地域で集まって検討していく場合は、その地域の女性が参加している

地区防災計画策定キックオフ講演会の様子▶



地域の団体による活動

【倉敷南小学校PTA 防災減災クラブ】

- 保護者や子たちの防災減災意識向上のための情報誌を発行

【地区防災計画・情報誌詳細】
倉敷市防災危機管理室HP：
<https://www.city.kurashiki.okayama.jp/36618.htm>



【真備町川辺復興プロジェクトあるく】

- 「防災おやこ手帳」(右)を作成
- 水害を経験した真備地域の子育て中の保護者に行ったアンケート等をもとに作成
- その他、防災カフェや住民同士の話し合いの場をつくっている



6 / 7

倉敷市の現在の活動です。

【ポイント】

〔地区防災計画の作成〕

- 令和元年8月3日 地区防災計画策定キックオフ講演会を開催
- 策定がうまく進んでいるところは女性が多い
- 地区防災計画を、地域で集まって検討していく場合は、その地域の女性が参加している

〔地域の団体による活動〕

- 【倉敷南小学校PTA防災減災クラブ】 保護者や子たちの防災減災意識向上のための情報誌「きみも生きぬく力を身につけよう！防災力は想像力」を発行している。
- 【真備町「川辺復興プロジェクトあるく」】 真備町内に住むお父さん・お母さんを対象にしたアンケートを行い、「防災おやこ手帳」を作った。

【取組】

〔地区防災計画の作成〕

- 平成30年7月豪雨災害を受け、災害など万が一の事態が生じた場合に備え、事前準備や避難行動などについて住民達が自ら考える「地区防災計画」の策定を進めることとしました。
- 地域によりますが、策定がうまく進んでいるところは女性が多いように思います。幹事が男性の場合、情報網が限られるところもあります。女性ですとネットワークがあり、プラスに働いてるのかなと思います。検討の場が少し柔らかくなり、砕けた話ができるというのは、見ていて感じるころではあります。(数値的なものはないが)
- 地区防災計画を、地域で集まって検討していく場合は、その地域の女性が参加しています。ただ、男女共同参画の話をその中で行っているかと言えば、今まではなかったかもしれません。

〔地域の団体による活動〕

- 【真備町「川辺復興プロジェクトあるく」】 倉敷市真備町川辺を拠点に活動する住民主体のボランティア団体で、岡山県備中県民局提案型協働事業での支援を行っています。活動としては、“防災カフェ”の開催、“キッズ防災教育イベント”の実施、住民同士の話し合いの場を持ったりなどを行っています。

防災おやこ手帳画像:内閣府防災担当HP 防災リーダーと地域の輪第44回 より(冊子ダウンロードはなし)

事例11	災害対策本部へ男女共同参画課職員が常駐 復興計画策定委員会への女性委員の登用	倉敷市
◆ 取組のポイント ✓ 平常時から防災危機管理室と男女共同参画課が連携を深めていた ✓ 災害時に男女共同参画課の職員が災害対策本部の事務局に常駐したことで、最新の情報をもとに対応することができた ✓ 復興計画策定時に女性委員を増やすにあたり、女性が代表を務める団体を登用した		
【担当者のメッセージ】 災害の現場では、防災について深い知識がなくても、男女共同参画の視点を持った防災があるということを知っているだけで気づき、動けることが山のようにありました。また、逆を言えば男女共同参画の視点を持たなければ、現場で多くの悲劇を生んでしまいます。 男女共同参画と防災についてのプロを目指すことも大切ですが、まずは、男女共同参画と防災の関わりについて学ぶ機会を設けて、一人でも多くのプレイヤーがゼロから「1」になることが、様々な状況にある人を災害から守ることにつながっていくと思います。		
団体の概要 問い合わせ先	岡山県 倉敷市 市民局 男女共同参画課 〒710-8565 倉敷市西中新田640番地 【TEL】086-426-3105 【FAX】086-426-0990 【E-Mail】gndeql@city.kurashiki.okayama.jp https://www.city.kurashiki.okayama.jp/danjyo/	

7/7

倉敷市による男女共同参画の視点からの取組ポイントは、この3点です。

- 平常時から危機管理課と男女共同参画課が連携を深めていた
防災関連イベントや避難所運営マニュアルの作成を共同で行っていたことにより、連携が深まっていたことが、災害時の活動につながる効果がありました。
- 災害時に男女共同参画課が災害対策本部の事務局に常駐したことで、最新の情報をもとに対応することができた
災害対策本部事務局に常駐していた職員から男女共同参画課に最新の情報が入ってきて、その情報を基に、男女共同参画課としてできる対応を実施していききました。
- 復興計画策定時に女性委員を増やすにあたり、女性が代表を務める団体を登用した
女性が代表を務める団体を登用したため、あて職で女性が委員になっています。

【担当者のメッセージ】

災害の現場では、防災について深い知識がなくても、男女共同参画の視点を持った防災があるということを知っているだけで気づき、動けることが山のようにありました。また、逆を言えば男女共同参画の視点を持たなければ、現場で多くの悲劇を生んでしまいます。

男女共同参画と防災についてのプロを目指すことも大切ですが、まずは、男女共同参画と防災の関わりについて学ぶ機会を設けて、一人でも多くのプレイヤーがゼロから「1」になることが、様々な状況にある人を災害から守ることにつながっていくと思います。